

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	舗装二次改築事業			事業コード	1440
所属コード	81000	課等名	道路管理課	係名	維持係
課長名	近藤 春彦	担当者名	大丸 篤志	内線番号	2711
評価分類	☐ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☒ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	快適な居住環境の実現	コード	3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 2 目 舗装二次改築事業 (001-04)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 不明年度
根拠法令等	道路法第 16 条			

(2) 事務事業の概要

盛岡市内の道路交通の安全確保を図るために、老朽化が進行した道路の舗装を二次改築する事業。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

道路管理者が行う維持管理業務。市道の安全な通行確保，及び沿道の環境整備。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

厳しい財政状況のもと，全ての市民要望への対応は不可能であることから，緊急性を考慮して計画的に整備していく必要がある。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

道路機能が著しく低下し, 舗装二次改築が必要な路線

目標数値 76,901 の内容=路面性状調査補修必要延長
65,460m+平成 24 年度までの累計 10,631m

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 計画	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 舗装二次改築必要延長	m	17,025	17,025	17,025	17,025	17,025
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

既存道路機能及び交通安全を確保するため、要望・苦情等による舗装補修（穴埋め補修等）及び清掃等を実施

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 舗装二次改築予算措置延長	m	1,230	1,748	5,495	2,744	2,595
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

安全な通行の確保, 沿道の環境整備 (振動・騒音)

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
A 舗装二次改築整備延長累計	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	m	9,531	10,631	16,031	18,775	18,262
B 舗装二次改築達成率(整備延長累計/必要延長)	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	56	62	94	110	109
C	☐ 上げる ☐ 下げる						

	□維持						
--	-----	--	--	--	--	--	--

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	26年度実績
事業費	①	千円	38,014	44,584	162,242	91,285	90,592
	②	千円	0	0	0	0	0
	③ 方債	千円	29,600	34,700	119,400	34,300	35,400
	④ 一般財源	千円	1,976	3,929	13,345	3,950	4,297
	⑤その他()	千円		0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	70,917	83,213	294,987	129,535	130,289
人件費	⑤ ベ業務時間数	時間	691	810	4,195	1,260	1,268
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	2,764	3,240	16,780	5,040	5,072
計	トータルコスト A+B	千円	73,681	87,263	447,780	134,575	135,361
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

整合性はとれている。

理由：事業の実施により，円滑な交通が確保される。

② 市の関与の妥当性

法定事務であり妥当である。

③ 対象の妥当性

法定事務であり妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。（快適で安全な道路環境が保てない。）

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地はない。（緊急性を考慮し，限られた予算の中で事業実施しているものであり，現状より向上は困難である。）

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）
特定な受益者はいない。

(4) 効率性評価

適正な積算基準・仕様で設計・積算をしていることから、削減することは出来ない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	都市基盤施設の維持・強化	コード	26
	小施策（推進項目）	安全・快適な道路環境の向上	コード	26-2

(1) 改革改善の方向性

現状維持

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

安全で快適な通行を確保するため、老朽化により損傷している舗装について路面性状調査に基づき利用状況等を踏まえて優先度を評価し、より計画的かつ効果的な補修を行う必要がある。